

桜の代表品種「ソメイヨシノ」とは

江戸末期から明治初頭にかけて、**染井村**（そめいむら=現:東京都豊島区駒込）で作られた桜の新品種です。

当時有名だった奈良・吉野山の桜にあやかり、「ヨシノザクラ」と命名されましたが、吉野の桜は「ヤマザクラ」。品種が異なり、混同を避けるため「**染井吉野=ソメイヨシノ**」に変更したと言われています。

実は「外国の品種が混じっているのでは？」など、起源はよく分からなかったのですが、近年のDNA分析により純国産品種と分かりました。

また、すべての木が「接ぎ木苗」から育つ、同一の遺伝子を持つクローンであることも判明しました。

野生の桜に比べ、虫や病気に弱いとされていますが、花の色や形はどの木にもバラツキがなく、**開花時期もほぼ同じ**なのだそうです。

